

平成30年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

伝統的な農村景観の保全と活用をめざしたむらづくり

○集団等の名称 本寺地区地域づくり推進協議会（代表 佐々木 勝志）

○所在地 岩手県一関市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

一関市は、盛岡市と宮城県仙台市の間地点に位置し、高速道路と新幹線の高速交通網が備わるなど立地的には恵まれた条件にあり、観光資源も豊かな地域である。本寺地区は、市街地から西方に約20km離れた山間に位置し、かつて「骨寺村」と呼ばれた中尊寺の経蔵別当の荘園があった。7つの集落により構成され、山に囲まれた平坦地には、水田を中心とした耕地が広がる典型的な中山間地域である。

・むらづくり組織の概要

- ① 平成15年度に、「平泉の文化遺産」の推薦遺産に骨寺村荘園遺跡が追加されたことを契機に、全戸加入による「本寺地区地域づくり推進協議会」を設立し、荘園遺跡と共存する活力ある地域づくりに取り組み始めた。
- ② 本協議会には、地区農業全般を担当する営農部会、景観保全型ほ場整備を担当する基盤整備部会、景観を生かした地域おこしを担当する地域おこし部会の3つの部会を置き、さらに平成16年度から岩手大学が加わり活発な活動を展開している。
- ③ 平成18年度には、郷土料理レストラン、産直コーナーの開設に関する計画を作り、女性部会を新設した。

・むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ① 荘園景観の保全と農地整備を両立させ、生産性の向上を図り、自然乾燥等にこだわった「骨寺村荘園米」としてブランド化に取り組んでいるほか、骨寺荘園米オーナー制度を創設し、販路の拡大と収益性の向上を図っている。
- ② 日本在来の鶴首カボチャの一種で糖度の高い「南部一郎カボチャ」の特産化に取り組み、年間10トンを生産。形の良い7割は生食向け、その他はペースト等に加工し、大手百貨店の通信販売等で販売している。
- ③ 平成23年度に設置した「骨寺村荘園交流館」には、郷土料理レストラン、産直コーナーを併設し、女性部会会員が運営に関わっており、女性の所得向上とともに、地域経済の活性化を図っている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 中世から続く農村景観を守り伝えていくため、土水路の維持管理について、建設業の関連団体と協定を結び、地域住民とともに、年2回の泥上げを実施している。
- ② 骨寺村荘園交流館を活動拠点として、季節ごとに地域行事を行い、住民同士の交流を積極的に行うほか、大学生等との都市農村交流活動、教育旅行の受け入れ、伝統行事である中尊寺への米納めの復活や伝統芸能「鶏舞」の伝承活動などに取り組んでいる。
- ③ 中学生を対象に、骨寺村荘園遺跡のボランティアガイドの養成事業を開始するなど、将来故郷への誇りを持ち、定住することを期待する取組を行っている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、中世から続く農村景観を守り続けていくため、曲がりくねった土水路・畦畔を残す景観保全を重視した農地での水田農業を継続できる仕組みづくり、特産作物の生産や女性を主体とした6次産業化の取組に加え、都市農村交流活動等に取り組んでいる事例であり、今後の発展が大きく期待できる。

伝統的な農村景観の保存を目指し、地域住民が地域に誇りを持ち、地域外のサポーターを巻き込みながら活動する取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。